



取扱説明書

EC-02

3D2-28199-J0

はじめに

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。



安全にかかわる注意情報を示してあります。



取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。



取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要 点

正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「仮保証書」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間
- 正式保証書の発行に関する説明

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

安全運転のために	2	バッテリー取り扱いの注意	36	お車の手入れ	68
あなた自身のために	2	充電する場所	39	洗 車	68
歩行者と他の車のために	6	充電のしかた	42	保管のしかた	69
環境との調和のために	7	充電中の充電ランプの表示	46	アフターケア用品について	70
交換部品と運搬	7	充電時間	47	こんなときは	71
EC-02の特徴	9	充電の進行状態の表示	49	サービスデータ	76
パワーモード/標準モード	9	バッテリーの知識	50	製品仕様	76
走行距離	10	運転操作	51	車両情報	78
バッテリーの上手な使いかた	11	発進の準備	51	二輪車を廃棄する場合は？	78
バッテリー残量の目安	12	走りかた	53	モデルラベル	79
名称と操作	15	ブレーキの使いかた	55	車台番号、原動機番号、	
各部の名称	15	止まりかた	56	型式認定番号	79
おしらせ音について	17	日常点検	58		
計器類の見かた	19	日常点検の実施	58		
キーの取り扱い	24	日常点検箇所／点検内容	58		
メインスイッチ	24	日常点検の方法	59		
ハンドルロック	25	定期点検整備	63		
ハンドルスイッチの使いかた	26	定期点検整備の実施	63		
シートの開閉	27	定期点検整備の方法	63		
ヘルメットホルダー	28	車体各部の給油脂状態の点検	64		
書類入れ	28	バッテリーの点検	64		
トランク	28	ブレーキシューの摩耗点検	64		
スタンディングハンドル	29	やさしい整備	65		
ヘッドライト	29	やさしい整備	65		
ハンドルバー／フットレスト	30	ブレーキの遊びの調整	65		
バッテリーの充電	32	バックミラー	66		
充電するときは	32	ヒューズ	66		

安全運転のために

JAU01896

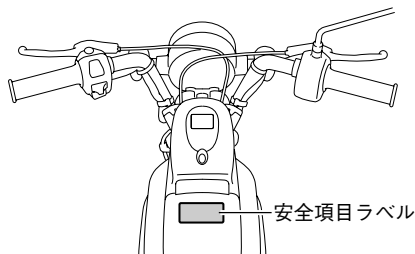
この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

- 安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

JAU09102

1.あなた自身のために

◆安全項目ラベルについて



運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

⚠ 警告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

3D2-2118K-00

◆安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。
ヘルメットはSまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は保護性の高い服で、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボンを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
ズボンのすそや袖口の広い服は、運転操作のじゃまになり、思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。
- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、く

るぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

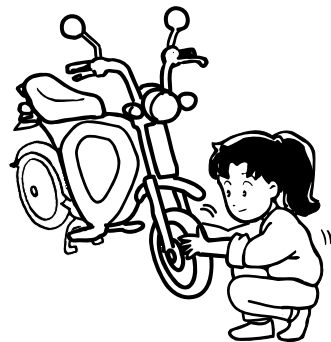


⚠ 警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。

運転者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

◆日常点検、定期点検整備を必ず実施する



事故や故障を防ぐため、法令で定められた1日1回ご使用前に行う日常点検と、法令で定められた6か月、12か月ごとに行う定期点検は必ず実施してください。

◆車の異状

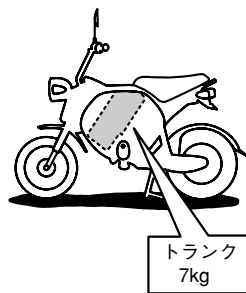
次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。

◆スロットルグリップに磁気を帯びたものや磁気の影響を受けるものを近づけない

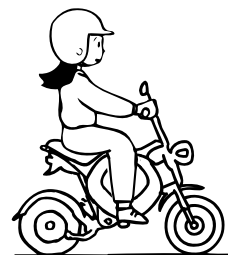
強い磁気を帯びたものや、磁気の影響を受けやすいカード類、時計などをスロットルグリップに近づけないでください。

◆荷物はしっかり固定する



- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですので、積みすぎないように注意してください。

◆両手はハンドル、両足はフットレスト

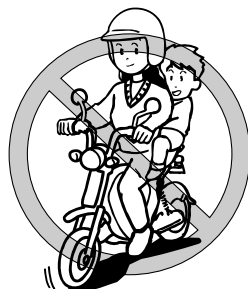


運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。

◆押して移動するときは
メインスイッチをOFFにする

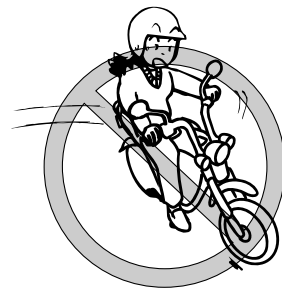
車から降りて押して移動するときはメインスイッチをOFFにしてください。なお、後進させるときに「ゴツゴツ」した感じがありますが、モーターの特性であり故障ではありません。

◆乗車定員は 1 名



運転者以外に人を乗せることは道路交通法によって禁じられています。

◆急激なハンドル操作や片手運転は
しない



急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

◆法定最高速度は 30 km/h

車の速度が法定最高速度（30km/h）以上になると、スピードメーター部の速度警告灯が点滅し、運転者に注意をうながします。

◆むやみに部品の取り外しはしない

むやみに部品の取り外しはしないでください。事故や故障の原因となることがあります。

2. 歩行者と他の車のために

◆違法改造はしない

違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。

また、改造すると車の保証が受けられません。

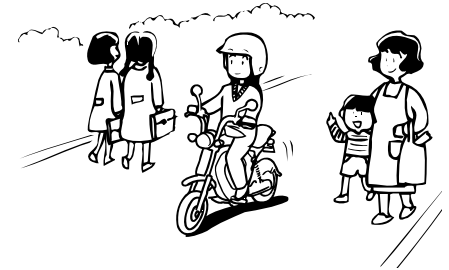
◆自賠責保険に必ず加入



自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。

◆他の人への思いやり



- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。
歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

◆駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。
やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。

◆昼間はヘッドライトを下向きに

EC-02は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

3.環境との調和のために

◆環境への配慮

廃車をするときや、寿命がきて使用済みになったバッテリーの処理をするときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

JALU09004

4.交換部品と運搬

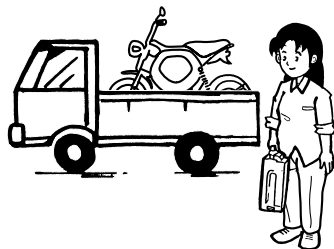
◆アクセサリや交換部品は純正部品を使用する

警告

タイヤなどの消耗品やアクセサリなどの部品は、販売店にご相談の上、必ず純正部品を取り付けてください。それ以外の市販品を使用しますと、事故によるケガや故障の原因になることがあります。

また、保証の適用が受けられない場合があります。

◆運搬するときは
バッテリーをはずす



▲注意

四輪車などでEC-02を運搬する場合は、バッテリーを車体から外してください。バッテリーを外さずに運搬すると、車体やバッテリーを損傷するおそれがあります。

EC-02の特徴

JAU09104

パワーモード/標準モード

EC-02は、走行条件（道路状況など）に応じて、モーターの駆動力を選択することができます。

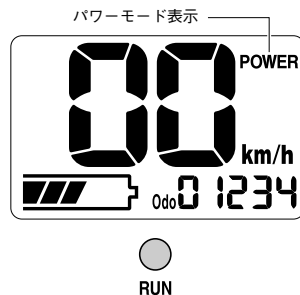
通常は「標準モード」で、坂の多い道などでは、楽に走れる「パワーモード」で走行するなど、上手なモードの切り替えで快適な走行が楽しめます。

◆モードの切り替えかた

「パワーモード」、「標準モード」の切り替えは、操作ボタンで行います。



操作ボタンを押すたびに、パワーモードと標準モードが切り替わります。



パワーモード表示（POWER）が表示されているときは、パワーモードに設定されています。パワーモード表示（POWER）が表示されていないときは、標準モードに設定されています。

要 点

- メインスイッチをOFFにしても設定したモードは記憶されています。
- 操作ボタンを1秒以上押し続けると、オドメーター／トリップメーターの切り替えモードになります。

◆モードの上手な選びかた

表を参考にしながら、走行条件に応じてモードを選んでください。標準モードで走行すると、バッテリーの消費が少ないため、1回の充電で走行できる距離が伸びます。

モード		パワー*	標準
適用状況	発進	○	○
	平地	○	○
	上り坂	○	△
	下り坂	○	○

○：効果的な走行ができる、おすすめモードです。

* 標準モードに比べ走行距離が短くなります。

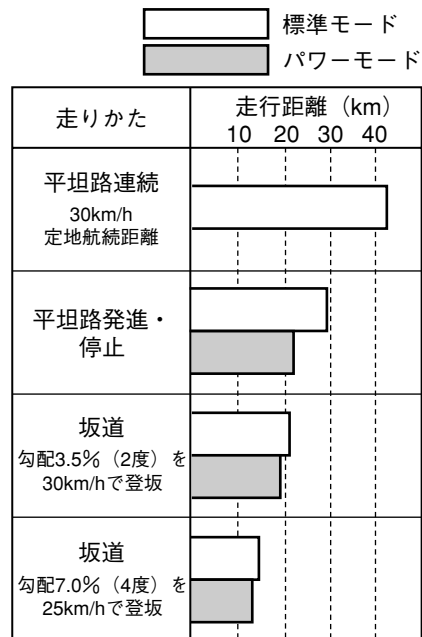
走行距離

要 点

1回の充電で走行できる距離は、走りかたや道路状況など（※）により異なります。

※発進・停止の回数、車載重量、坂の勾配、路面の状態、風向き、風速、気温、充電状態、バッテリーの性能低下、タイヤの空気圧低下など。

◆1充電あたりの走行距離



*最大登坂能力は約16%（約9度）です。

※バッテリー新品、常温25℃、車載重量（乗員および荷物を合計した重量）55kg、平滑乾燥路面、無風状態で走行したときの弊社データ

※パワーモードで常時走行すると、標準モードで走行した場合より、走行できる距離が短くなります。

※バッテリーの特性上、気温の変化（バッテリー温度の変化）により、走行できる距離が短くなる場合があります。

※車載重量が75kgのときは、55kgのときと比べて走行できる距離が10～20%短くなります。

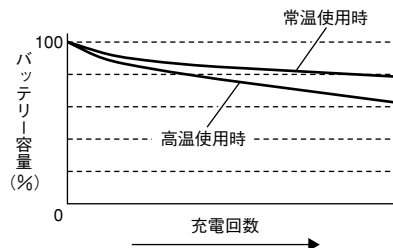
バッテリーの上手な使いかた

バッテリーの寿命を延ばすため、以下のよう
な取り扱いをおすすめします。

要 点

- 充電をするときは、直射日光が当たらない、涼しい場所を選んで充電してください。
- 月に1～2回、充電ランプが消灯したあとに充電器を8～12時間接続したままにしてください。自動的に補充電を行います。(充電ランプの消灯後、約12時間で自動的に充電器の内部にて電源が切れます。)
- バッテリーの残量が10%以下（バッテリーの残量表示が1灯以下）の状態、長期間保管しないでください。
- バッテリーを取り外して保管をするときは、涼しい場所を選んで保管してください。
- 長期間使用しないときは、バッテリーの残量表示が2～3灯の状態にして車体から取り外し、涼しい場所（最適温度10℃～25℃）に保管してください。

◆バッテリーの劣化特性



バッテリー残量の目安

▲注意

使用する前に必ず確認します。

◆バッテリー残量の確認のしかた

メーター内バッテリー残量表示灯またはバッテリーボックス側ランプで確認できます。

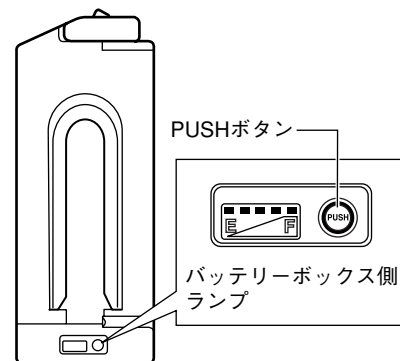
要 点

充電中は充電の進行状態を表示します。このときは、使用中の残量表示とは異なります。(49ページ「充電の進行状態の表示」参照)

メーター内バッテリー残量表示灯の見かた
メインスイッチをONにすると、メーター内のバッテリー残量表示灯は数秒間全セグメントを点灯し、その後バッテリーの放電量に応じて残量の目安を表示します。



バッテリーボックス側ランプの見かた
(バッテリーの外しかたは42ページ「充電のしかた」参照)
PUSHボタンを押すと5秒間表示します。



◆バッテリー残量の目安

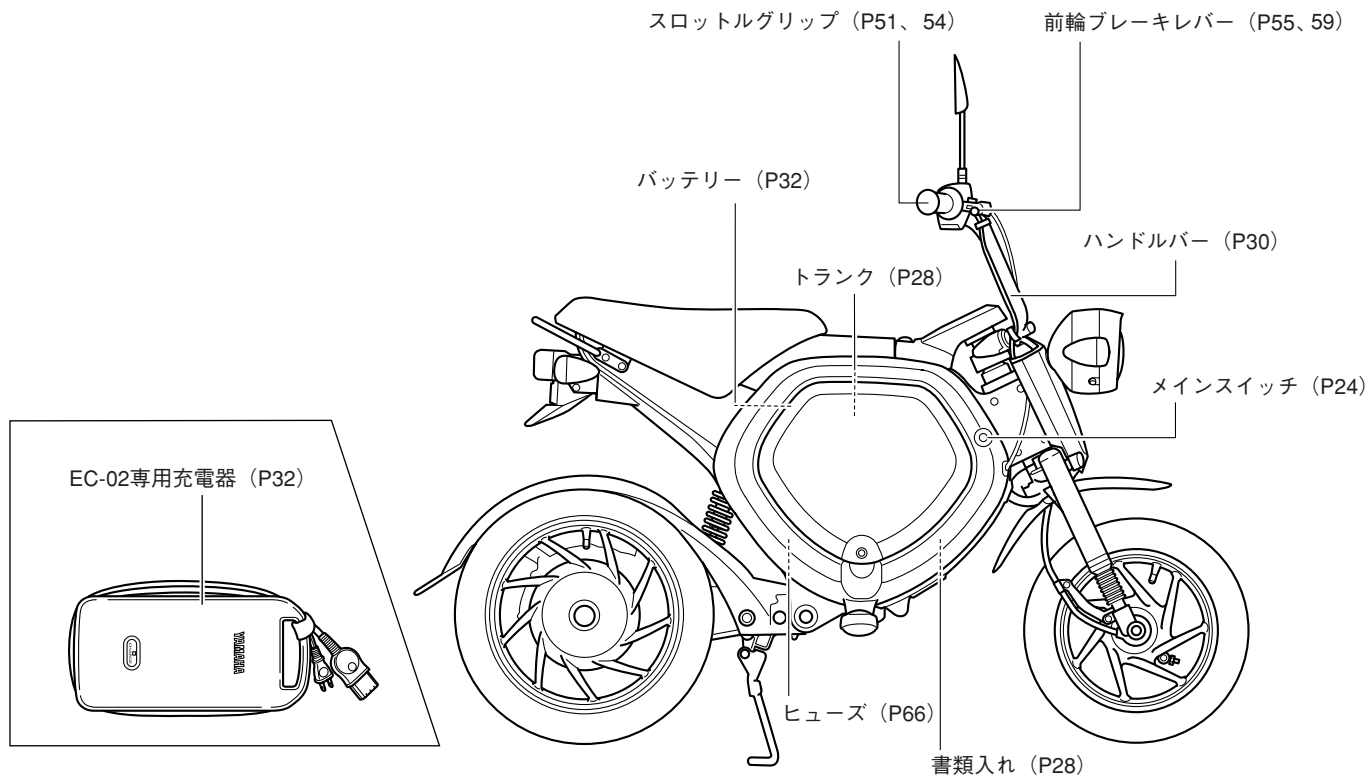


バッテリー残量 (%)	メーター内バッテリー残量表示灯	バッテリーボックス側ランプ	状態
75~100			走行可能です。
55~75			
55			走行可能です。 バッテリー残量が約半分になったことを4灯目のセグメントの点滅で知らせます。
35~55			走行可能です。
20~35			
10~20			登坂力などが低下します。 充電してください。
1~10			バッテリー残量が約10%になったことを1灯目のセグメントの点滅とお知らせ音で知らせます。 早めに充電してください。
0~1			バッテリー残量がほとんどありません。 使用を中止して充電してください。
0			走行不可能です。

名称と操作

JAU01918

各部の名称



各部の名称を示してあります。() 内に参照ページがあるものは、そのページに詳しい説明があります。
(……部は外からは見えない部分です。)

後輪ブレーキレバー (P51、55、59)

ハンドルスイッチ (P26)

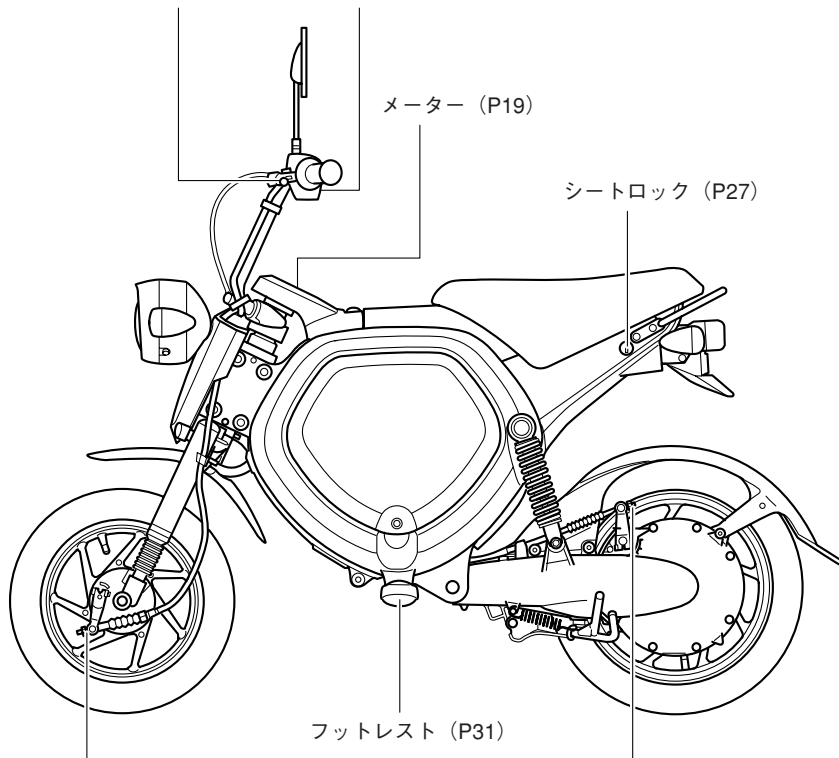
メーター (P19)

シートロック (P27)

前輪ブレーキアジャスター (P65)

フットレスト (P31)

後輪ブレーキアジャスター (P65)

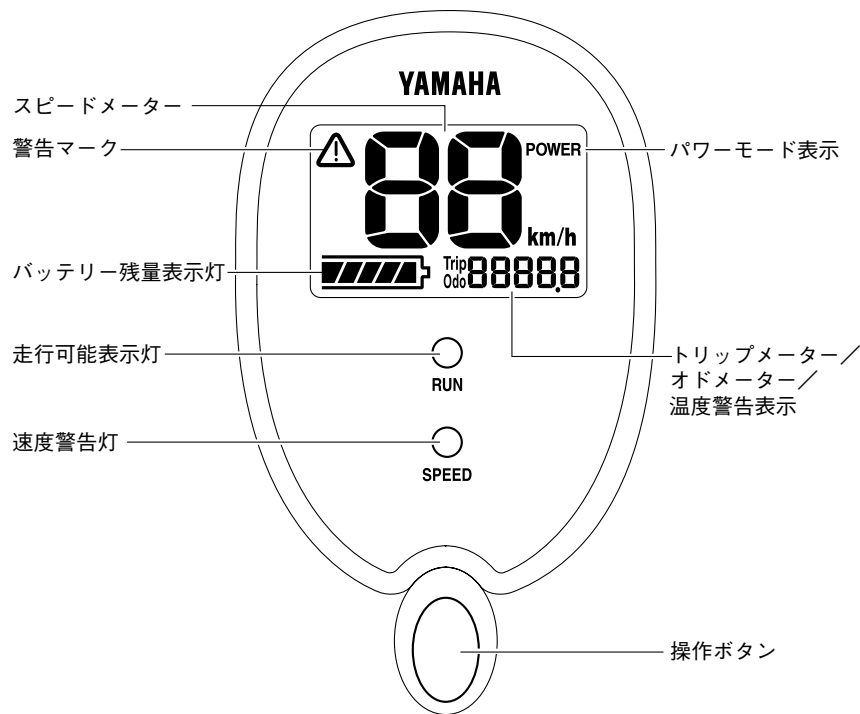


おしらせ音について

EC-02は、以下の車両操作や動作をおしらせ音で知らせます。

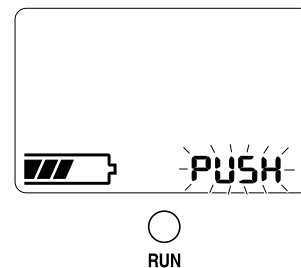
- メインスイッチON
- 始動待ち警告（52ページ参照）
- 走行可能状態（20ページ参照）
- 方向指示灯（左／右）使用
- バッテリー残量約10%
（13ページ参照）

計器類の見かた



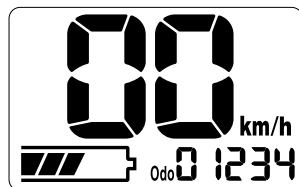
JAU09106

EC-02にはコントロールユニットなどの自己診断機能が装備されています。メインスイッチをONにすると自己診断を行い、メーターが全て点灯します。自己診断終了後、自動的に始動待ちモードになります。始動待ちモードになると“PUSH”が点滅します。



操作ボタンを押すと始動待ちモードが解除され、走行モードになります。

走行モードになると、走行可能表示灯 (RUN) が点灯します。



走行可能
表示灯
RUN

要 点

走行モードになるとおしらせ音が鳴ります。ブレーキレバーを握るか走行すると鳴りやみます。

JAU09011

◆スピードメーター

車の速度を数字で示します。

JAU09107

◆操作ボタン

操作ボタンには以下の機能があります。

- 始動待ちモードの解除
- パワーモード／標準モードの切り替え
- オドメーター／トリップメーターの切り換え
- トリップメーターのリセット



ボタンの操作は必ず停車中に行ってください。

JAU09108

◆トリップメーター／オドメーター

走行距離を表示します。メインスイッチをOFFにしても設定は記憶されています。

トリップメーター (Trip)

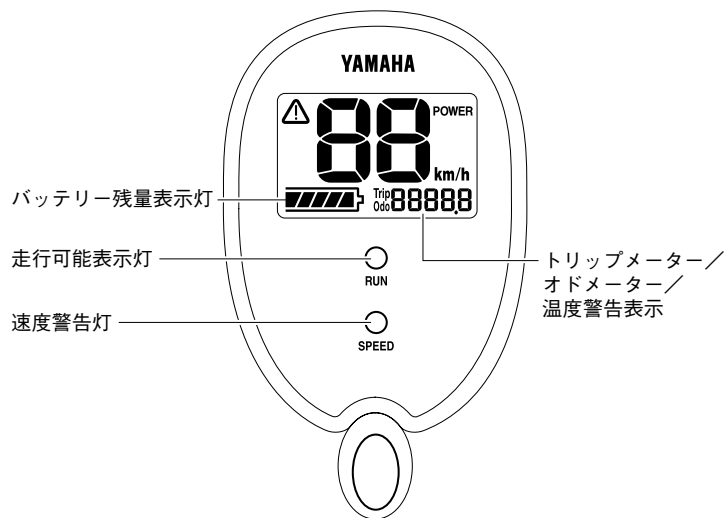
操作ボタンを4秒以上押し続けてメーターを“0.0”にリセットすると、次にリセットするまでの走行距離を積算します。

操作ボタンを1～4秒の間押してはなすと、オドメーターに切り替わります。

オドメーター (Odo)

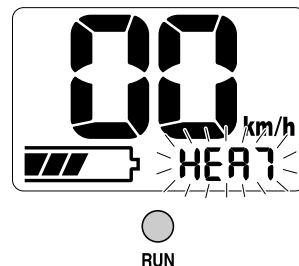
走行した総距離をkmの単位で示します。定期点検整備の目安にもなります。

操作ボタンを1秒以上押してはなすと、トリップメーターに切り替わります。



走行可能表示灯（RUN）が点灯しているときは走行できますが、バッテリーからの放電がおさえられているのでスピードが遅く感じる場合があります。

特にバッテリー残量表示灯が2灯以下のときには、バッテリーからの放電制限によって駆動力が大きく下がりますが、故障ではありません。



JAU09013

◆温度警告表示（HEAT/COOL）

EC-02は、バッテリーやコントローラーの保護のため温度保護機能が装備されています。

温度異常を検出したときは、トリップメーター／オドメーターの表示を中止して次のように表示します。

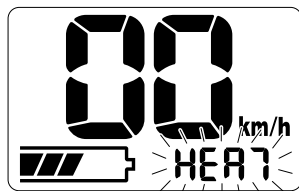
バッテリーやコントローラーの温度が規定温度以上になると“HEAT”が点滅します。バッテリーの温度が規定温度以下になると“COOL”が点滅します。

要 点

“COOL”が点滅する温度は、バッテリー残量が2灯以下のときには、より高い温度で点滅することがあります。

走行可能表示灯（RUN）が点灯したままバッテリーやコントローラーの温度が規定温度になると温度警告表示が自動的に解除され、オドメーター／トリップメーターが再び表示されます。

走行可能表示灯（RUN）が消灯しているときは走行できません。



メインスイッチをOFFにしてしばらく待ってから使用してください。

要 点

メインスイッチを一旦OFFにしてからONにしなすと温度警告表示が解除されません。

▲注 意

EC-02を押して移動する場合は、メインスイッチをOFFにしてください。

また、歩道のある場所では歩道を通行してください。

JAU09109

◆速度警告灯（SPEED）

車の速度が法定最高速度（30km/h）以上になると点滅し、運転者に注意をうながします。

JAU09110

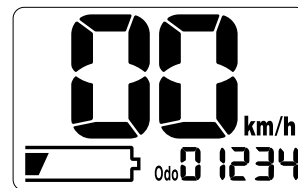
◆走行可能表示灯（RUN）

走行可能なときは“RUN”が点灯します。

JAU09014*

◆バッテリー残量表示灯

バッテリーの残量を示します。
1セグメント点灯になったら、早めに充電してください。

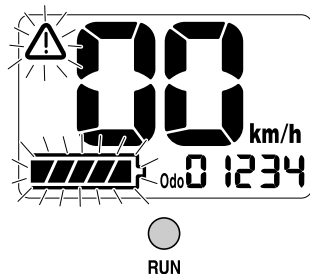


（バッテリー残量の目安は13ページ参照）

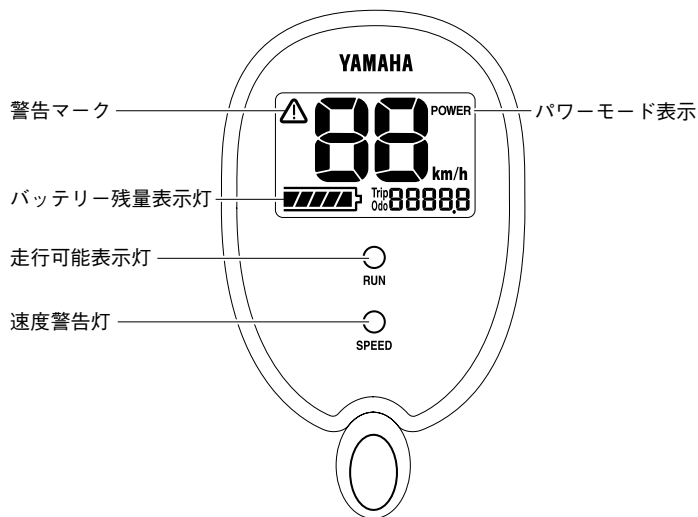
要 点

走行前にはバッテリー残量が充分かを必ず確認してください。

バッテリーの異常を検出するとバッテリー残量を表示できなくなり、警告マーク(⚠)とバッテリー残量表示灯の全セグメントが点滅します。



走行できますが、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



JJAU09019

◆パワーモード表示 (POWER)

パワーモードに設定されているとき、“POWER”を表示します。
(パワーモード／標準モードの切り換えは9ページ「モードの切り換えかた」を参照)

JJAU09018

◆警告マーク (⚠)

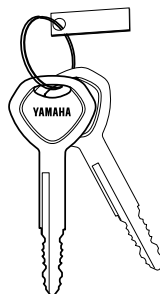
異常を検出すると点滅します。メインスイッチを一旦OFFにしてからONにしながら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

要 点

メインスイッチをONにすると数秒間点灯しますが、その後消灯すれば異常ではありません。

JAU09134

キーの取り扱い



- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、充分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- 1本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを2本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。

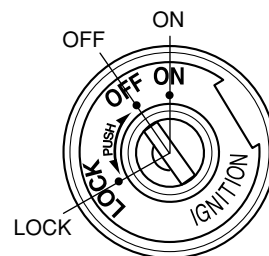
▲ 注 意

金属製のキーホルダーをつけると、車体を傷つけるおそれがあります。

JAU09021

メインスイッチ

電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。



JAU09022

ON

- ヘッドライト、テールランプとメーター灯が点灯し、全てのメーター表示部を数秒間表示します。
- キーは抜けません。

要 点

EC-02にはバッテリー保護のため、オートパワーオフ機能が装備されています。停止したまま5分以上経過すると電源がOFFになります。5分以上停止してから再発進する場合は、一旦メインスイッチをOFFにしてから再度メインスイッチをONにして発進の準備をしてください。

JAU09024

OFF

- 電源がOFFになります。
- キーの抜き差しができます。

JAU02038

LOCK (ハンドルロック)

- ハンドルをロックします。
- キーの抜き差しができます。

JAU02042

⚠ 警告

走行中にメインスイッチをOFFやLOCKの位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JAU09025

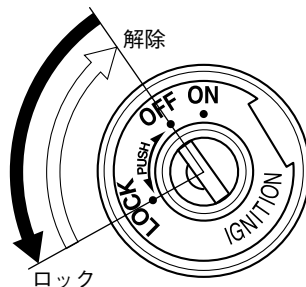
⚠ 注意

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU09023

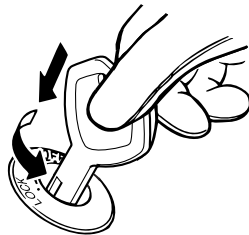
ハンドルロック

ハンドルロックは駐車時などの盗難予防用です。



ロックのしかた

1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFFの位置でキーを押し込み、そのままLOCKまで回します。



要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。

3. ハンドルを軽く左右に動かして、ロックを確認します。
4. キーを抜きます。

⚠ 警告

- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。
やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。

⚠ 注意

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

解除のしかた

キーをLOCKの位置で押し込み、そのままOFFまで回します。

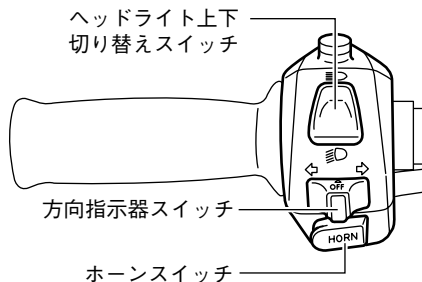


警告

走行前にハンドルを左右に切り、切れ角が左右均等であるかを確認します。

JAU02070

ハンドルスイッチの使いかた



JAU03916

◆ヘッドライト上下切り替えスイッチ (≡D ≡D)

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

≡D (上向き) : 遠くを照らします。

≡D (下向き) : 近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き≡Dにしてください。

JAU09026*

◆方向指示器スイッチ (⇐⇐⇐)

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

⇐⇐⇐ : 右側の方向指示灯が点滅します。

⇐⇐⇐ : 左側の方向指示灯が点滅します。

要 点

方向指示灯を使用するとおしらせ音が鳴ります。

警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他の方の迷惑になります。

方向指示灯が速く点滅しているときは、方向指示灯の電球が切れています。電球を交換してください。

▲注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。これ以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU02083

◆ホーンスイッチ (HORN)

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

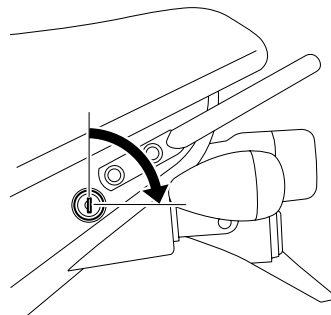
要 点

必要なときにのみ使用してください。

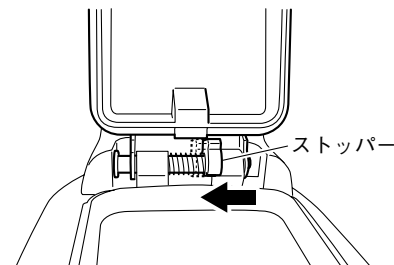
JAU09138

シートの開閉

キーでシートロックを解除し、シート後方を持ち上げてシートを開けます。



閉めるときは、ストッパーを左へ押しながらシートを少し倒し、ストッパーを解除します。
シートを手で下ろし、シート後部を押さえてロックします。



▲注意

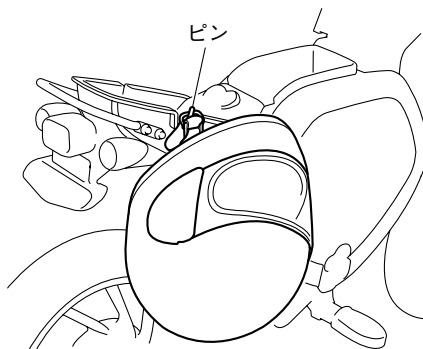
ストッパーを解除するときは、シートなどに指をはさまないようにしてください。

要 点

シートが確実にロックされているか確認してください。

ヘルメットホルダー

シートを開けるとヘルメットホルダーがあります。ヘルメットのおごひもの金具部分にピンを掛け、シートをロックします。

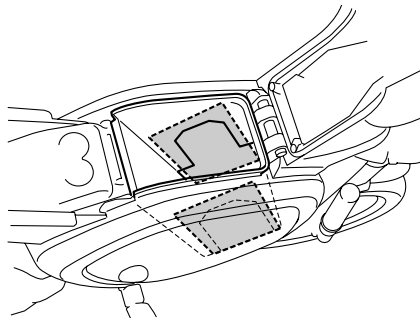


⚠ 警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ思わぬ事故の原因になったり、ヘルメットが損傷し保護機能が低下することがあります。また、車に損傷を与えることがあります。

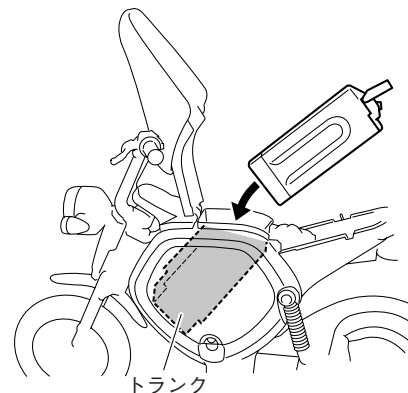
書類入れ

トランクの中に書類収納場所があります。メンテナンスノート、自賠責保険証とともにビニール袋に入れて保管してください。



トランク

シート下にトランクがあります。予備のバッテリー（別売り）、充電器、小物等が収納できます。



⚠ 警 告

トランク内に積める荷物は7kgまでです。

⚠ 注 意

充電器を収納する場合は別売りの収納バッグを必ず使用してください。収納バッグを使用しないと、充電器の端子などが損傷する場合があります。

▲ 注 意

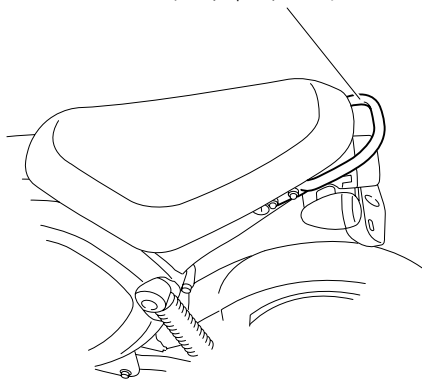
- 洗車をする中に水が入ることがあります。
大切なものは、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れたものは、ビニール袋に入れてから収納してください。
濡れたまま入れると、トランク内にカビなどが発生することがあります。
- 貴重品やこわれやすい物はいれなくてください。
- トランク内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物はいれなくてください。
- 車から離れるときは必ずシートをロックしてください。
- キーをトランク内に入れたままシートを閉じると、ロックされて開けられなくなります。注意してください。

JAU02331

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てるときに右手で持ちます。

スタンディングハンドル



JAU09030

ヘッドライト

ヘッドライトは走行中は明るく点灯し、停車すると減光します。

要 点

- 停止したまま5分以上経過するとバッテリー保護のため、オートパワーオフ機能が作動し、電源がOFFになります。
- バッテリー残量が少ないとき（メーター内バッテリー残量表示灯の表示が1セグメント点灯以下のとき）は減光しません。

ハンドルバー／フットレスト

EC-02は、ハンドルバー、フットレストを折りたたむことができます。

⚠ 警 告

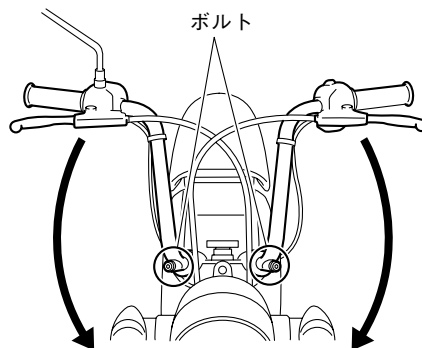
- ハンドルバー、フットレストは走行中に折りたたまないでください。
- ハンドルバー、フットレストを折りたたんだまま、または正しく固定されていない状態では絶対走行しないでください。

JAU09129

◆ハンドルバーの折りたたみかた

1. メインスタンドを立てます。
2. ハンドルバー前方にあるボルトを緩めます。

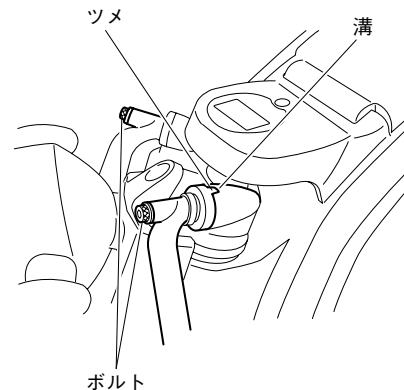
3. ハンドルバーを折りたたみます。



⚠ 注 意

ボルトを緩めるとき、ハンドルバーが急に倒れこむことがあります。ハンドルバーを手で支えながらボルトを緩めるようにしてください。

4. ハンドルバー取り付け部のツメと溝をかみ合わせボルトを締め付けます。

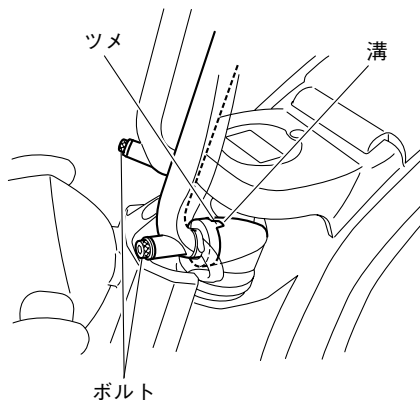


⚠ 注 意

ボルトを締め付ける際は、ケーブル、配線類をかみ込まないように注意してください。

◆走行状態への戻しかた

1. ハンドルバー前方にあるボルトを緩めます。
2. ハンドルバーを元の位置に戻します。
3. ハンドルバー取り付け部のツメと溝をかみあわせボルトを締め付けます。



⚠警告

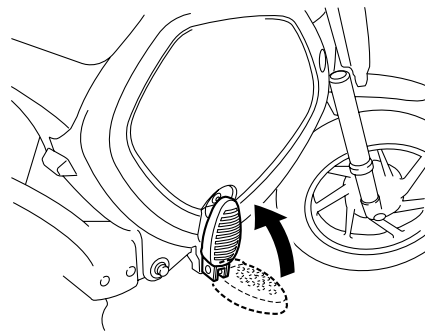
- 走行前、ハンドルバーが確実に締め付けてあるか、ガタがないか点検してください。
- 走行前に、前後のブレーキの作動、ハンドルスイッチの作動を確認してください。

⚠注意

ボルトを締め付ける際は、ケーブル、配線類をかみ込まないように注意してください。

◆フットレストの折りたたみかた

フットレストを図のように折りたたみます。



◆走行状態への戻しかた

戻しかたは、折りたたみかたと逆の手順で行ないます。

⚠警告

走行前、フットレストにガタがないか点検してください。

バッテリーの充電

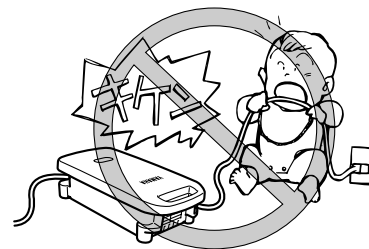
JAU09032

充電するときは

充電するときは、次の「警告」「注意」を守って正しく安全に作業してください。

⚠ 警告

バッテリーを取り付けたまま充電するときは、キーを抜いてください。



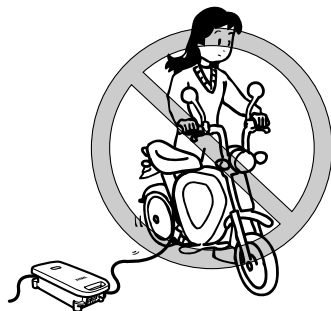
⚠ 警告

EC-02専用充電器は幼児やペットがいたずらするところに放置しないでください。



警告

電源プラグや充電プラグをぬれた手で取り扱わないでください。感電するおそれがあります。



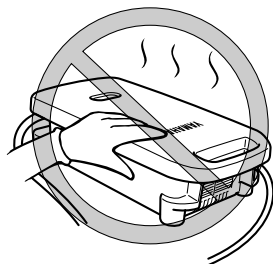
警告

バッテリーを取り付けたまま充電するときは、充電器を接続したままの状態で車体を動かさないでください。
転倒してケガをしたり、機器を損傷するおそれがあります。



警告

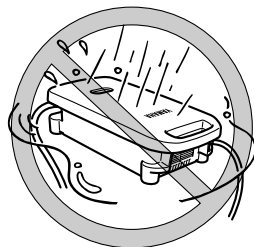
EC-02専用充電器は他の電気製品などに使用しないでください。
EC-02専用充電器はEC-02とパッソルEA06のバッテリー充電用に開発された専用品です。接続プラグの形状が一致しても、他の電気製品などには絶対に使用しないでください。破損や火災の原因になります。



⚠ 警告

充電中のEC-02専用充電器に、長時間、皮膚の同じ場所で触れないでください。

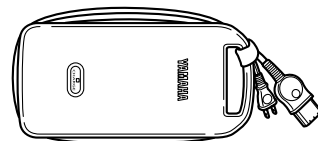
EC-02専用充電器は充電中に発熱し、高温になる場合があります。充電中のEC-02専用充電器に長時間皮膚の同じ場所で触れていると、低温やけどのおそれがあります。



⚠ 警告

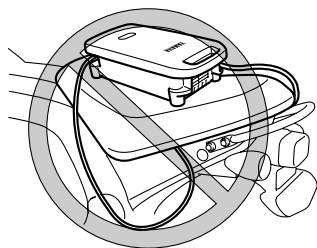
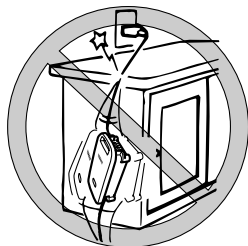
EC-02専用充電器を水没させたり、雨中に放置しないでください。

充電中にバッテリーを破損させる事があります。水が入ったと思われる場合は、必ずヤマハ販売店で点検を受けてからご使用ください。



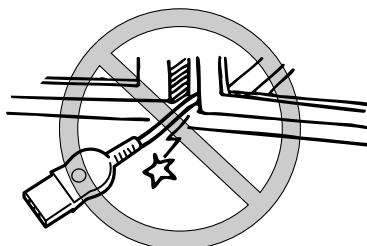
⚠ 警告

充電するときは必ずEC-02専用充電器またはパッソルEA06専用充電器を使用してください。バッテリーなどが損傷するおそれがありますので、EC-02専用充電器またはパッソルEA06専用充電器以外は絶対に使用しないでください。



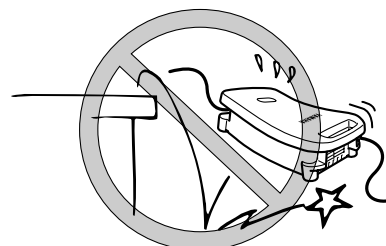
▲注意

充電するときは、EC-02専用充電器を平坦な場所にしっかり設置してください。
このとき、必ずランプが上向きになるよう設置してください。コードが引っぱられたり、逆さのままで使用すると故障の原因になります。



▲注意

充電コードの取り扱いは充分注意してください。
EC-02専用充電器が屋内に、車両が屋外にある場合、ドアやサッシで充電コードをはさみ込むとコードを傷つけるおそれがあります。また、コードを引っ張ってプラグを抜かないでください。コードを傷つけるおそれがあります。

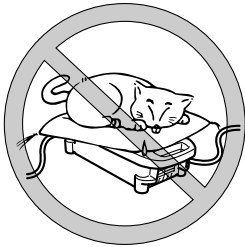


▲注意

EC-02専用充電器を落したり、強い衝撃を与えないでください。
充電ができなくなったり、破損するおそれがあります。

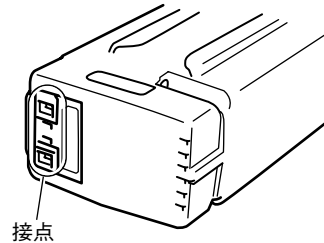
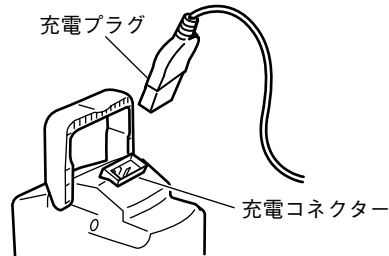
バッテリー取り扱いの注意

バッテリー取り扱いときは、次の「警告」「注意」を守って正しく安全に作業してください。



▲注意

EC-02専用充電器にカバーをしたり、上に物を置かないでください。また、複数のEC-02専用充電器を重ねたり密着させて使用しないでください。EC-02専用充電器は冷却のためファンが作動していますので、内部が発熱し、充電できなくなることがあります。



▲注意

バッテリー底部の接点や充電プラグ、充電コネクターにごみ、土、油、水などが付着しないよう注意してください。充電ができなくなったり破損するおそれがあります。バッテリー底部の接点や充電プラグ、充電コネクターはいつもきれいにしておいてください。



⚠ 警告

バッテリー底部の接点やバッテリー上部の充電コネクタにもものをつめたり、ショートさせないでください。

接点部にもものをつめると、接触不良により使用できなくなることがあります。また、針金などでショートさせると、感電または故障のおそれがあります。



⚠ 警告

バッテリーに水をかけたり、水中に投下しないでください。

バッテリーに水をかけるとショートし、感電の原因になります。また、水中に投下すると電池機能を失い、使用できなくなります。



⚠ 警告

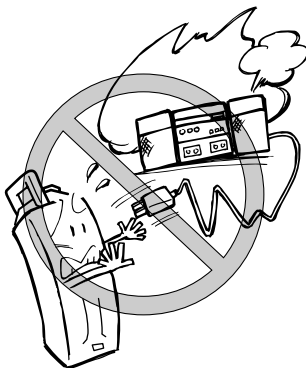
バッテリーを火中に投げ入れないでください。

バッテリーを火中に投げ入れると、破裂のおそれがあり大変危険です。使用済バッテリーは、ヤマハ販売店で必ずリサイクルしてもらいましょう。



⚠ 警告

バッテリーを分解しないでください。
バッテリーを分解すると故障の原因になります。



⚠ 警告

バッテリーを他の電気製品や用途に使わないでください。
バッテリーはEC-02専用です。他の電気製品に使用すると、バッテリーや他の電気製品が損傷することがあります。EC-02またはパッソルEA06以外の用途には絶対に使用しないでください。



⚠ 注意

バッテリーを落としたり、強い衝撃を与えないでください。
バッテリーが破損したり断線の原因になります。特に階段の角にぶついたり、運搬時に引きずったりしないでください。

充電する場所

充電時間は充電環境に左右されます。また、充電環境が悪いとEC-02専用充電器やバッテリーの故障の原因となります。下記の諸条件を満たす場所を選んで充電してください。

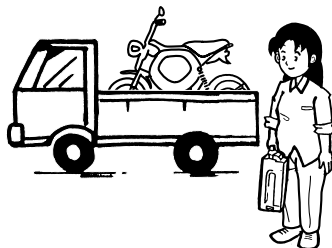
- 平坦で安定がよいところ。
- 雨や水にぬれないところ。
- 直射日光の当たらないところ。
- 風通しがよく、湿気の少ないところ。
- 幼児やペットなどがいたずらをしないところ。
- 充電中の室温が-5℃～45℃の範囲内の場所。



▲注意

損傷しているバッテリーは使用しないでください。

バッテリーを落下させたり、ぶつけたりして損傷したまま使用すると故障の原因になります。ヤマハ販売店で点検を受けてから使用してください。



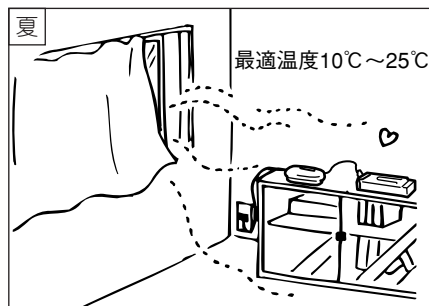
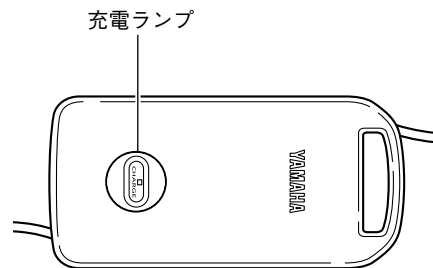
▲注意

EC-02を四輪車などで運搬するときは、バッテリーを取り外してください。
バッテリーを取り付けたまま運搬すると、衝撃で破損したり断線の原因になります。

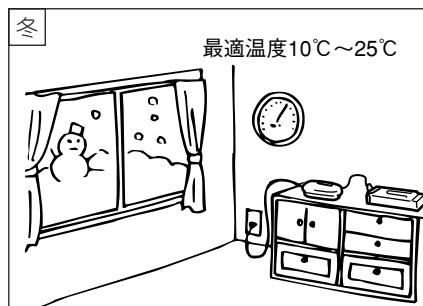
充電おすすめ場所の参考例

要 点

充電に最適な温度は約10℃～25℃です。室温が-5℃～45℃の範囲なら充電可能ですが、走行直後のバッテリーは、この温度範囲外にある場合があります。この場合、バッテリー内部温度が適正温度になるまで充電待ちの状態（充電器の充電ランプが緑色で点滅する状態）になります。

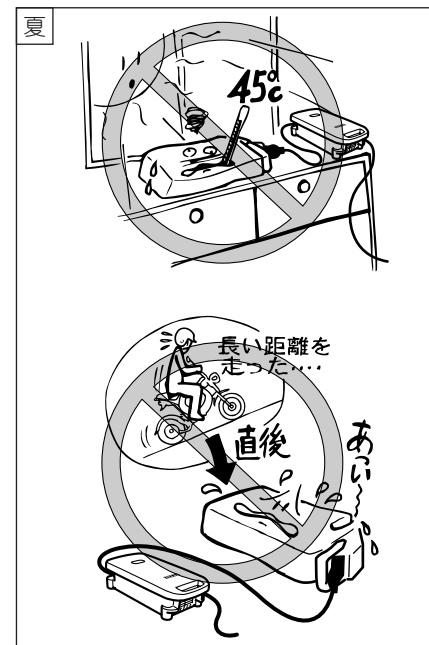


- 日陰ですずしく、風通しのよい場所



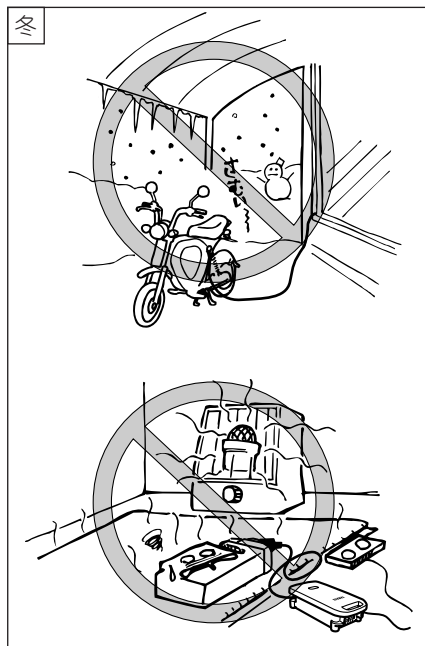
- 夜間でも-5℃以下にならない場所

充電に適さない場所、充電方法



- 直射日光が当たる場所での充電
- 長い距離を走行した直後の充電

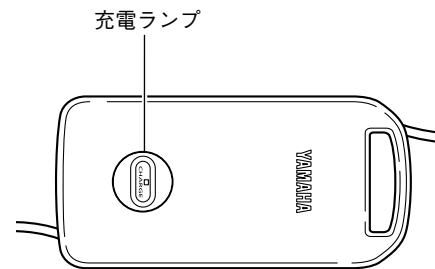
充電途中でバッテリーが規定の温度を越えたときはバッテリー保護のために自動的に充電を中止しますので、充電不足になる場合があります。また、バッテリーの劣化にも影響しますので、充電はできるだけすずしい場所で行ってください。



- 冬の屋外、または物置などの寒い場所での充電
- ストープやこたつなどの暖房器具の近くでの充電

充電前には適正温度範囲内であっても深夜の冷え込みなどにより途中で -5°C 以下になるとバッテリー保護のために自動的に充電待機となり、EC-02専用充電器の充電ランプが緑色でゆっくり点滅して知らせます。このようなときはあたかな場所でもう一度充電をしておってください。

なお、充電待機が長時間続くと自動的に充電を中止しますので、充電不足になる場合があります。



充電のしかた

バッテリーは車体に取り付けたままでも、取り外した状態でも充電ができます。

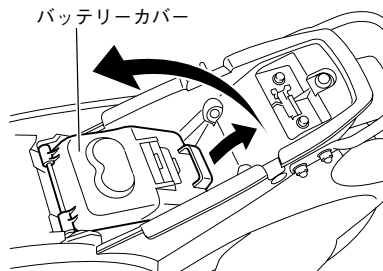
JAU09036

◆バッテリーを取り外して 充電する場合

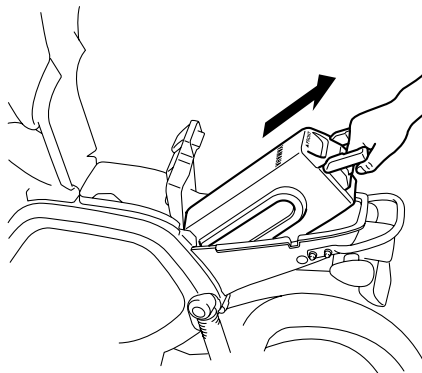
1. メインスイッチをOFFにします。
2. シートを開けます。
(シートの開閉は27ページ参照)
3. 手を添えてバッテリーカバーを開けます。

▲注意

バッテリーカバーはスプリングの力で勢いよく開きます。

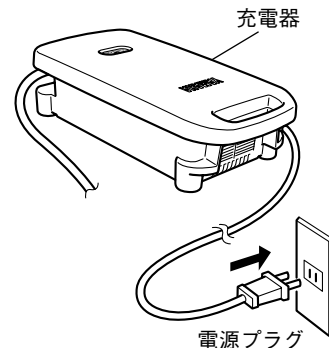


4. バッテリーのグリップを持って、バッテリーを引き上げて抜き出します。



5. バッテリーカバーを閉めます。
カチッと音がするまでバッテリーカバーを押さえて閉めます。
6. シートを閉め、シート後方を押さえてロックします。

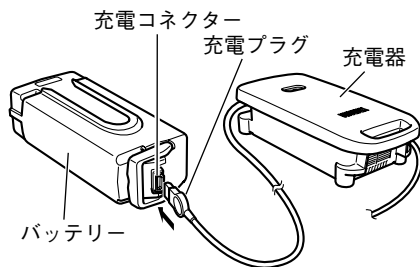
7. 充電器の電源プラグを家庭用のコンセント（100V）に差し込みます。



▲注意

コードは巻いたまま使用しないでください。発熱して機器を損傷させるおそれがあります。

8. 充電器の充電プラグをバッテリーの充電コネクタに差し込みます。



要 点

- 充電器を電源とバッテリーに接続すると、自動的に充電を行います。
- 充電中はバッテリーボックス側ランプで進行状態を確認できます。(進行状態の表示は49ページ参照)
- 充電中は充電器の充電ランプが作動状態を知らせます。(充電ランプの表示は46ページ参照)

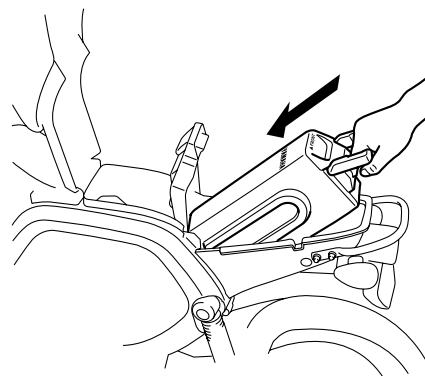
- EC-02専用充電器は強制空冷方式を採用しています。充電中はファンが作動していますので、ファンモーターやファンの風切り音がします。
- 充電が完了すると充電器の電源は自動的に切れます。

9. 充電が終了したら充電器の充電プラグをバッテリーの充電コネクタから抜きます。
10. 充電器の電源プラグをコンセントから抜きます。

▲注 意

使用後は安全のため、コンセントから電源プラグを抜いて保管してください。

11. シートを開けます。
12. バッテリーカバーを開けます。
13. バッテリーのグリップを持ち、左側のガイドに添わせてゆっくり挿入します。



▲注意

- バッテリーを挿入するときは、指などはさまないように注意してください。
- バッテリー底部の接点や充電プラグ、充電コネクタにごみ、土、油、水などが付着しないよう注意してください。充電ができなくなったりバッテリーが破損するおそれがあります。バッテリー底部の接点や充電プラグ、充電コネクタはいつもきれいにしておいてください。
- バッテリーを挿入する際に異物が入らないようにしてください。

要 点

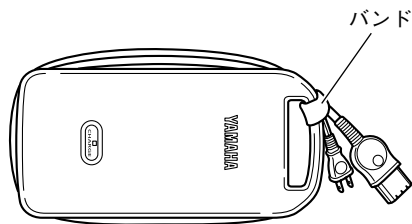
バッテリーは奥まで確実に挿入してください。

14. バッテリーカバーを閉めます。

カチッと音がするまでバッテリーカバーを押さえて閉めます。

15. シートを閉め、シート後方を押さえてロックします。

16. 充電器のコードは充電器本体に巻き、バンドで留めて保管します。



▲注意

充電直後は充電器本体やコードが発熱していることがあります。冷めてから行ってください。

JAU09112

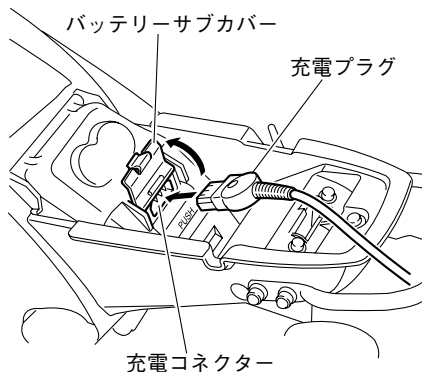
◆バッテリーを取り付けたまま充電する場合

1. メインスイッチをOFFにします。
2. シートを開けます。
(シートの開閉は27ページ参照)
3. 充電器の電源プラグを家庭用のコンセント（100V）に差し込みます。

▲注意

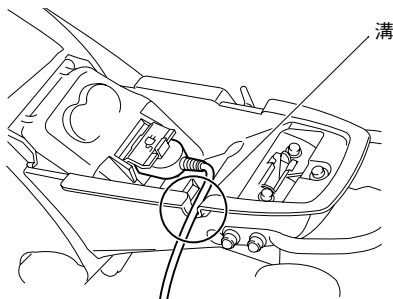
コードは巻いたまま使用しないでください。発熱して機器を損傷させるおそれがあります。

4. バッテリーカバー中央部のバッテリーサブカバーを開け、充電器の充電プラグをバッテリーの充電コネクタに差し込みます。



▲注意

充電器と充電コネクタをつなぐコードは溝を通して配線してください。コードを溝に正しく通さないとコードなどが損傷するおそれがあります。



5. シートを閉め、シート後方を押さえてロックします。
6. キーを抜き取ります。

▲注意

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

要 点

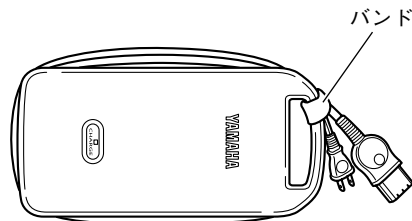
- 充電器を電源とバッテリーに接続すると、自動的に充電を行います。
- 充電中はメーターで進行状態を確認できます。(進行状態の表示は49ページ参照)
- 充電中はメインスイッチがONの状態でも、バッテリー残量表示灯以外は作動しません。
- 充電中は充電器の充電ランプが作動状態を知らせます。(充電ランプの表示は46ページ参照)
- EC-02専用充電器は強制空冷方式を採用しています。充電中はファンが作動していますので、ファンモーターやファンの風切り音がします。
- 充電が完了すると充電器の電源は自動的に切れます。

7. シートを開けます。
8. 充電器の充電プラグをバッテリーの充電コネクターから抜きます。
9. 充電器の電源プラグをコンセントから抜きます。

▲注意

- 使用後は安全のため、コンセントから電源プラグを抜いて保管してください。
- 充電終了後は、屋外へ放置しないでください。

10. バッテリーカバー中央部のバッテリーサブカバーを閉めます。
11. シートを閉め、シート後方を押さえてロックします。
12. 充電器のコードは充電器本体に巻き、バンドで留めて保管します。



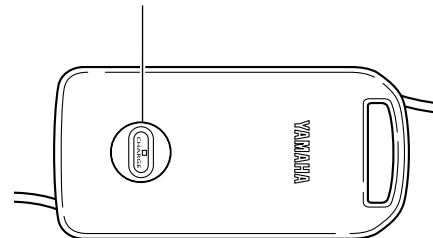
▲注意

充電直後は充電器本体やコードが発熱していることがあります。冷めてから行ってください。

JAU09038

充電中の充電ランプの表示

充電ランプ



JAU09039

◆緑ランプ点灯

通常充電中です。

充電が完了すると、充電ランプが消灯します。

◆緑ランプ点滅

バッテリーの温度が充電可能範囲（-5℃～45℃）でないとき、または電圧が低いときに表示します。充電待機中です。

充電待機中は、充電器の充電ランプが緑色でゆっくり点滅し充電待ちをします。適正な環境になると充電ランプが緑色の点灯に変わり、自動的に充電を開始します。

要 点

- 充電の途中でも環境の変化により充電待機中になり、緑ランプが点滅することがあります。適正な環境になると充電ランプが緑色の点灯に変わり、自動的に充電を開始します。
- 充電ランプが緑色でゆっくり点滅する充電待機が長時間続くと、速い点滅にかわって充電を中止します。適正な温度の場所へ移動するなどして、充電をやりなおしてください。

◆赤ランプ点灯または点滅

充電器またはバッテリーボックス内異常を検出したため、充電できません。一旦充電プラグと電源プラグを抜いて充電を中止し、39ページ「充電する場所」を参照して充電環境を整えてから、再度充電してください。再び赤ランプが点灯または点滅する場合は機器の故障が考えられます。充電プラグと電源プラグを抜いて使用を中止し、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

要 点

充電の途中でも環境の変化により充電不能になり、赤ランプが点灯または点滅することがあります。

JAU09040

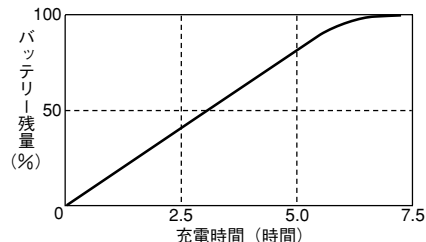
充電時間

JAU09113

◆通常充電

充電時間は、充電前の走行状態やバッテリー残量・外気温により異なります。

バッテリー残量0%の状態のバッテリーを充電するのにかかる時間は約6.0時間です。



要 点

充電時間には充電待機（緑ランプ点滅中）は含みません。

JAU09042

◆充電待ち

バッテリー温度が-5℃～45℃の範囲にある場合は、充電待ちはありません。

バッテリー温度が-5℃以下あるいは45℃以上のときは、充電器の充電ランプが緑色でゆっくり点滅し充電待ちをします。適正な温度になると充電ランプが緑色の点灯に変わり、自動的に充電を開始します。

▲注 意

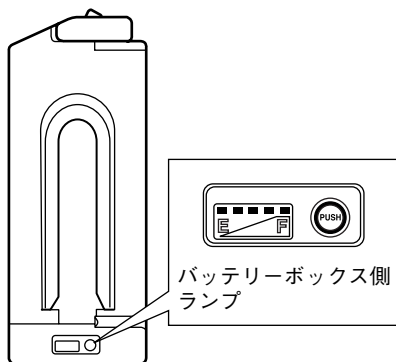
- 充電が完了すると充電器の電源は自動的に切れます。使用しないときは安全のため、コンセントから電源プラグを抜いて保管してください。
- 充電終了後は、充電器を屋外へ放置しないようにしてください。

充電の進行状態の表示

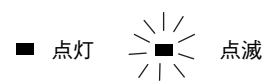
充電中は充電状態が表示されます。

バッテリーを取り付けたまま充電しているときはメーターに充電状態が表示されます。

バッテリーを取り外して充電しているときはバッテリーボックス側ランプに充電状態が表示されます。



充電の進行状態 (%)	メーター	バッテリーボックス側 ランプ
0~20		
20~35		
35~55		
55~75		
75~99		
100	消灯	消灯



バッテリーの知識

JAU09045*

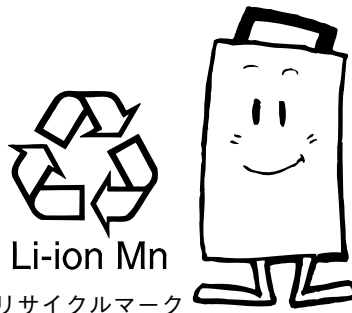
◆リチウムイオンバッテリーとは…

EC-02に使われているリチウムイオンバッテリー（Li-ion Mn）はエネルギー密度が高く、ニカド（Ni-Cd）バッテリーやニッケル水素（Ni-MH）バッテリーの約3倍の高電圧が得られるため、小型で軽量にできます。

また、ニカドバッテリーやニッケル水素バッテリーでは、浅い放電と充電を繰り返すと放電容量が減少するというメモリー効果があるため、定期的なリフレッシュ充電が必要ですが、リチウムイオンバッテリーはリフレッシュ充電は不要で、継ぎ足し充電が可能です。

◆バッテリーのリサイクルにご協力ください

リチウムイオンバッテリー（Li-ion Mn）はリサイクル可能なバッテリーです。寿命がきて使用済みになったバッテリーは、販売店で回収リサイクルしてもらってください。小さな積み重ねが地球の限られた資源を有効活用します。



◆バッテリーの劣化

EC-02に使われているリチウムイオンバッテリー（Li-ion Mn）は、性能（放電容量）が徐々に低下してゆく特性を持っています。性能低下の度合いは使用条件によって異なりますが、繰り返し充・放電回数500回で新品時の約70～80%まで放電容量が低下します。

要 点

バッテリーを交換したときは、使用前にEC-02専用充電器で完全に充電してください。完全に充電しないと、メーター内のバッテリー残量表示灯が正確な残量を表示できません。

運転操作

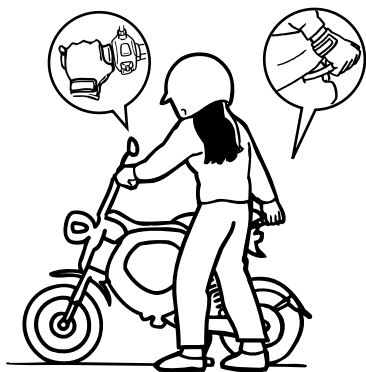
JAU09114

発進の準備

要 点

発進の準備はスロットルグリップを閉じて行ってください。スロットルグリップを回して操作すると、エラーになることがあります。

1. 左手で後輪ブレーキレバーを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちます。

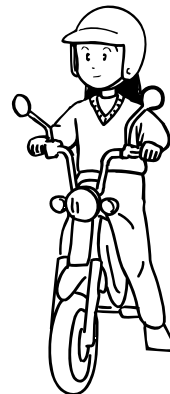


2. 車を前に押し出してメインスタンドを戻します。

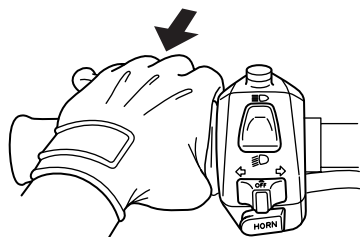
⚠ 警 告

メインスタンドを立てたり戻したりするときは、スタンディングハンドルを持ってください。メインスイッチがONになっているときにスロットルグリップを握って押し出すと、スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

3. 車に乗ります。



4. 車が動き出さないように左手で後輪ブレーキレバーをしっかり握ります。



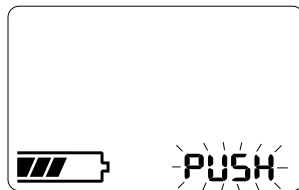
警告

飛び出し防止のため必ず後輪ブレーキを作動させて、車が倒れないように左足で支えてください。

5. メインスイッチをONにします。



全てのメーター表示が数秒間点灯した後、始動待ちモードになります。

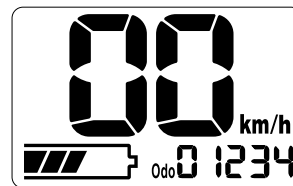


RUN

要点

始動待ちモードのときにスロットルをあけるとおしらせ音が鳴ります。

6. 操作ボタンを押して始動待ちモードを解除します。



RUN

要点

走行モードになると、おしらせ音が鳴ります。ブレーキレバーを握ると鳴りやみます。

走りかた

7. バッテリー残量表示灯でバッテリー残量が充分かを確認します。
(バッテリー残量の目安は12ページ参照)



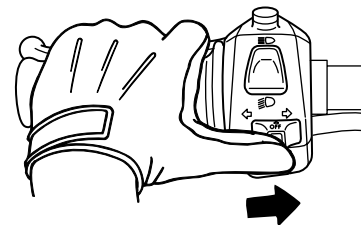
1. 走行可能表示灯 (RUN) が点灯し、走行モードになっていることを確認します。



要 点

パワーモードに設定されているとパワーモード表示 (POWER) を表示します。
(パワーモード／標準モードの切り換えは9ページ「モードの切り換えかた」を参照)

2. 方向指示器スイッチを右側に入れ、発進の合図をします。



要 点

方向指示灯を使用するとおしらせ音が鳴ります。

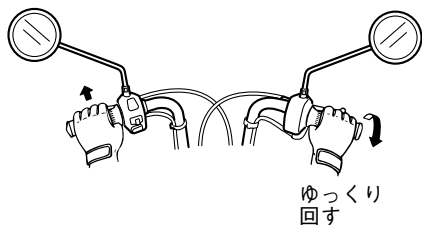
3. 前後の安全を確認します。

警告

周りの安全を充分に確認してから発進してください。

特に雨の日や夜間は周りの状況が見えにくくなります。より慎重な安全確認が必要です。

4. 後輪ブレーキレバーをはなします。
5. スロットルグリップをゆっくり手前に回して発進します。



警告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

要 点

- 発進後は方向指示灯をすみやかに消灯してください。
- EC-02にはバッテリー保護のため、オートパワーオフ機能が装備されています。停止したまま5分以上経過すると電源がOFFになります。5分以上停止してから再発進する場合は、一旦メインスイッチをOFFにしてから再度メインスイッチをONにして発進の準備をしてください。

JALU09048*

◆スピードの調整

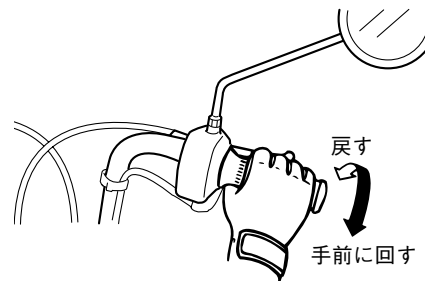
スピード調整はスロットルグリップを回して行います。

戻す：

スピードが遅くなります。すばやく戻してください。

手前に回す：

スピードが速くなります。ゆっくり回してください。

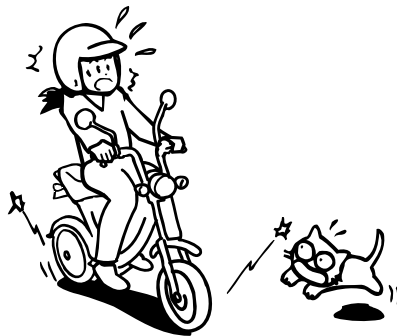


ブレーキの使いかた

▲注意

上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、パワーユニット内のコントローラーが発熱して温度保護装置が作動し、走行できなくなることがあります。

- スロットルグリップを戻し、前輪ブレーキレバーと後輪ブレーキレバーを同時に握り、ブレーキをかけます。
- ブレーキは徐々に、しぼり込むようにかけるのが上手なかけかたです。余裕をもったブレーキ操作をしてください。
- 不要な急ブレーキはかけないでください。
急ブレーキをかけると、横すべりや転倒の原因となることがあります。



▲警告

雨の日や水たまりを走行した後は、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、安全な場所で前後の車に充分注意し、低速で走行しながらききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させ、ブレーキの湿りをかわかしてください。

要 点

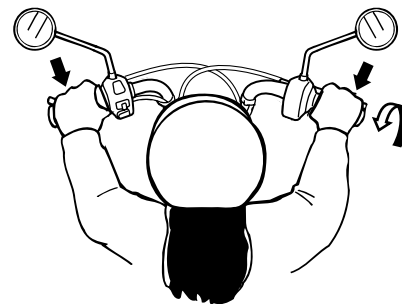
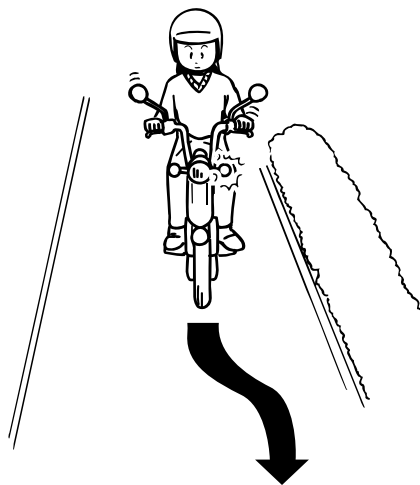
- 前輪または後輪ブレーキだけを使うと、横すべりや転倒の原因となることがあります。必ず前後のブレーキを同時にかけてください。
- 雨の日や路面がぬれているところ、雪道や凍った道路では、滑りやすく制動距離も長くなります。速度を落として、余裕をもった運転をしてください。
- 長い下り坂などで連続してブレーキを使用すると、フェード現象の原因となります。このようなときは、断続的なブレーキ操作で走行してください。

要 点

- フェード現象
ブレーキ部の温度が上昇すると、ブレーキのききが悪くなるか、まったくきかなくなる現象。

止まりかた

1. 方向指示器スイッチを左側にスライドさせ、左に寄る合図をします。
2. 後方の安全を確認します。
3. 周りの交通に注意しながら、徐々に左に寄ります。
4. スロットルグリップを戻します。
5. 徐々に前輪、後輪のブレーキをかけます。
不要な急ブレーキはかけないでください。



6. 車が止まったら左足を地面につけて、車を支えます。



7. 方向指示器スイッチを押して、方向指示灯を消します。
8. メインスイッチをOFFにします。
9. 車の左側に降ります。
10. 左手でハンドルを、右手でスタンディングハンドルを持ちます。

11. 車を垂直にし、右足でメインスタンドを降ろします。このとき、メインスタンドの脚が左右とも地面に着いていることを確認します。
12. 右足でメインスタンドを強く踏み込みながら、右手でスタンディングハンドルを引き上げます。

⚠ 警 告

- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。
やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。

JAU09117

◆ 駐車をするとき

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。

要 点

極端に気温の高い場所または低い場所に駐車すると、メインスイッチをONにしたときに温度保護機能が作動する場合があります。温度保護機能が作動するとオドメーター／トリップメーター表示部に“HEAT”または“COOL”を点滅表示します。(温度保護機能は21ページ「温度警告表示」を参照)

日常点検

JAU03277

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で、1日1回の日常点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

JAU09052

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、次頁以降の日常点検の方法および別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降を参照してください。

点 検 箇 所	点 検 内 容
ブレーキ	ブレーキレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ※ 溝の深さが充分あること。
エンジン (モーター)	※ モーターに異音がないこと。 ※ 低速、加速の状態が適当であること。
灯火装置 および方向指示灯	点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	当該箇所に異常がないこと。

(注)

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期に実施してください。

警告

点検するときは下記の内容に注意してください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選んで行ってください。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。

日常点検の方法

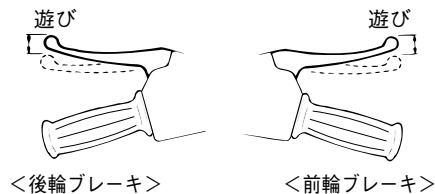
◆ブレーキレバーの遊び、 きき具合の点検

JAU02498

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが規定の範囲にあるかを点検します。

遊びは10～20mm



JAU02502

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

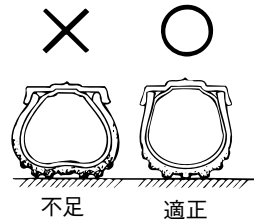
JAU09118

◆タイヤの空気圧

タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。

たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

(タイヤ空気圧は76ページ参照)



要 点

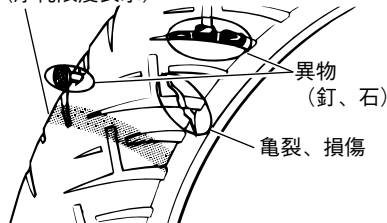
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU09119

◆タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。

ウェアインジケーター
(摩耗限度表示)



要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

JAU02509

◆タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU09120

◆タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。タイヤに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8 mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に原付のタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが1.6 mm以下になりましたら交換をおすすめします。

警告

- 異なった種類のタイヤや指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響がありますので使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU09053

◆モーターの異音の点検

モーターから異音がないかを点検します。

要 点

メインスタンド使用中は、安全のため、スロットルグリップを操作してもモーターの回転数は一定以上にはなりません。

JAU09054

◆低速、加速の状態の点検

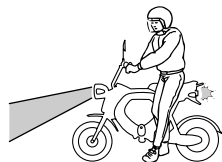
スロットルグリップを徐々に回して加速したとき、スロットルグリップもモーターもスムーズに回るかを走行するなどして点検します。異常を感じたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU09055*

◆灯火装置および方向指示灯の点検

メインスイッチをONにします。

- ヘッドライト、テールランプが点灯するかを点検します。
同時にヘッドライト上下切り替えスイッチを $\equiv$ $\cap$ にし、上向き、下向きに切り替わるかも点検します。



- 前輪ブレーキレバー、後輪ブレーキレバーを別々に握り、ブレーキランプが点灯するかを点検します。
- 方向指示器スイッチを操作し、前後左右の方向指示灯がおしらせ音を伴って点滅するかを点検します。



- レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

JAU02552

◆運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

定期点検整備

JAU03279

定期点検整備の実施

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、6 か月点検と 1 2 か月点検の 2 種類があります。

警告

- 定期点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

JAU09056

定期点検整備の方法

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。

実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

要 点

- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。



警告

点検するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 停止直後の点検は、モーターが熱くなっています。
ヤケドに注意してください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

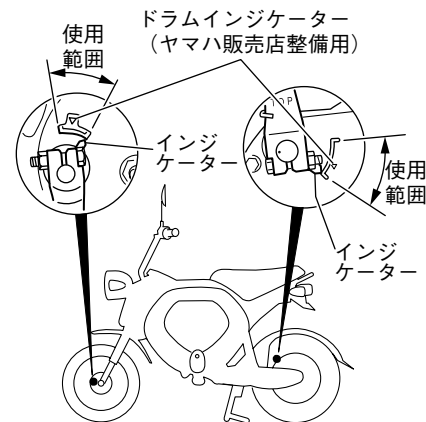
バッテリーの点検

バッテリーボックスに破損や損傷がないかを点検します。

バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキシューの摩耗点検

ブレーキレバーをいっぱい握ったとき、インジケーターが使用範囲から外れるとブレーキシューの使用限度です。ヤマハ販売店で交換・整備を受けて下さい。



やさしい整備

JAU09058

やさしい整備

点検をして車に異常が認められたときには、調整、清掃、交換などの整備が必要です。ここでは、通常行われることが多い簡単な整備方法を説明しています。

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

点検・整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検・整備は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 停止直後の点検は、モーターが熱くなっています。
ヤケドに注意してください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。

要 点

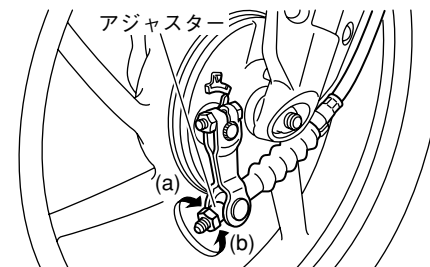
点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

JAU02672

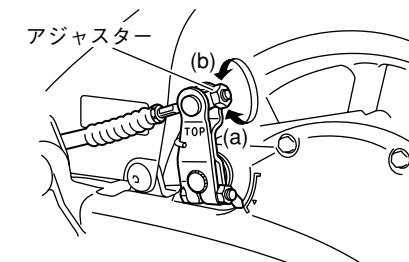
ブレーキの遊びの調整

前、後輪ブレーキレバー先端部の遊びが10～20mmになるように、アジャスターで調整します。

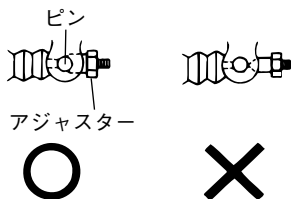
<前輪ブレーキ>



<後輪ブレーキ>



- 1: 時計回り (a) に回すと、遊びが少なくなります。
- 2: 反時計回り (b) に回すと、遊びが多くなります。



要 点

アジャスターは、必ずピンとかみ合わせてください。

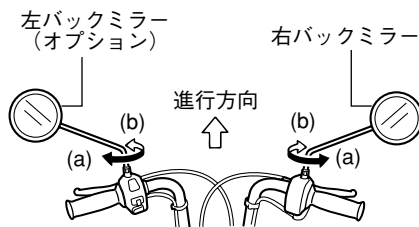
警告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯と、そのタイミングを確認してください。

JAU09121

バックミラー

◆バックミラーの取り付け および取り外しかた

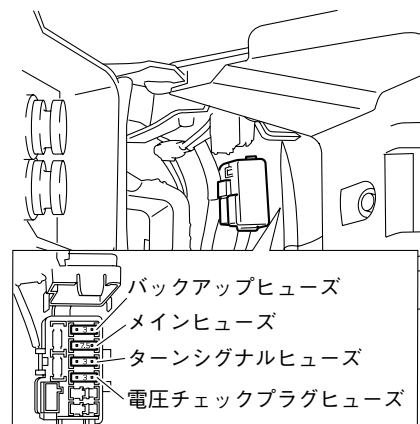


- 右バックミラーは左ネジです。
反時計回り (a) に回すと締まります。
時計回り (b) に回すとゆるみます。
- 左バックミラー (オプション) は右ネジです。
時計回り (a) に回すと締まります。
反時計回り (b) に回すとゆるみます。

JAU09122

ヒューズ

バッテリーを取り外すとヒューズボックスがセットされています。
(バッテリーの外しかたは42ページ「充電のしかた」参照)



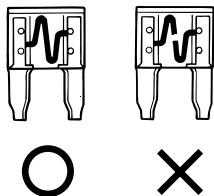
メインヒューズ：7.5A

ターンシグナルヒューズ：3A

バックアップヒューズ：3A

電圧チェックプラグヒューズ：3A

ヒューズが切れたときは、原因を調べてからスペアと交換してください。



▲注意

- 交換するヒューズは、規格外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けしないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

お車の手入れ

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マットブラック塗装車のお手入れに関するお願い

「お車の手入れ」では、一般的なお手入れの方法を説明していますが、マットブラック塗装を施してある車両については、以下の点にご注意いただいてお手入れをしていただきますよう、お願いします。

▲注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。ふき残しなどにより、外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マットブラック塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。
- マットブラック塗装部分の補修が必要な場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU09060*

洗 車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。からぶきはキズの原因になりますので、しないでください。また、スチーム洗車や水道ホースなどで、車に直接圧力をかける洗車もしないでください。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。

ワックス：ユニコンカークリーム

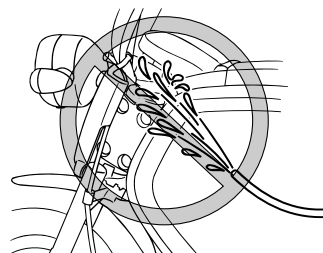
▲警告

- 洗車時、ブレーキドラムに直接水をかけないでください。ドラム内に水が入ると、ブレーキの制動力が低下し、一時的にブレーキがきかなくなることがあります。
- 特に寒冷地では充分注意してください。

- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

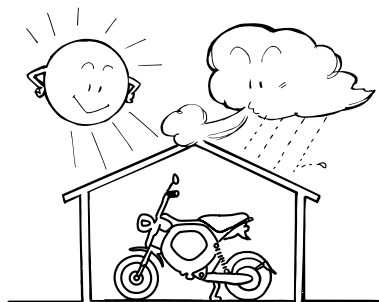
▲注意

- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部分を傷つけますので、使用しないでください。
- 洗車時、メーター付近に直接水をかけないでください。コントロールユニットのスピーカー部を損傷するおそれがあります。



保管のしかた

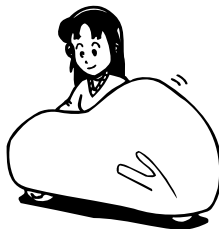
◆保管場所



保管場所は慎重に選びましょう。

- 平坦で安定のよいところ。
- 風通しがよく、湿気のないところ。
- 雨つゆや直射日光が当たらないところ。
- 車はできるだけ敷地内に保管してください。

◆保管方法



- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。
なお、ボディーカバーはモーターが冷えてからかけてください。

◆長期保管するときは

- バッテリーは取り外して保管します。バッテリー残量が少ない場合は充電してください。バッテリーを長持ちさせるために、バッテリーボックス側ランプが3個または4個点灯する状態での保管をおすすめします。

要 点

バッテリーは完全に放電してしまうと再充電して使用することができなくなります。

- バッテリーは室内の平坦で、すずしいところや湿気のない場所に保管してください。
- 保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。

アフターケア用品について

◆長期間保管して再使用するときは

- 長期間（1か月以上）保管して再び使用する場合は、必ず充電をしてから使用してください。（通常の充電よりも若干時間がかかる場合があります。）
- 走行前に、各部の点検をしてください。

大切な車の状態は、使用するお手入れ用品の品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

◆ユニコンカークリーム（ワックス）

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。



こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

電源が入らない（メーターに何も表示されない）ときは？

バッテリー残量はありますか？

バッテリーボックス側ランプでバッテリー残量を確認してください。バッテリー残量がないとき（ランプが1灯点滅しているとき）は充電してから使用してください。

バッテリー残量があるとき（ランプが1～5灯点灯しているとき）は・・・

ヒューズ切れが考えられます。66ページを参照してヒューズを点検してください。ヒューズに異常がないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

メインスイッチをONにしても始動待ちモードにならないときは？

次の項目を確認してください。

1. 充電中ではありませんか？
充電中はメインスイッチをONにしても始動待ちモードにはなりません。
2. スロットルグリップを回さずにメインスイッチをONにしましたか？
スロットルグリップを回した状態でメインスイッチをONにしても始動待ちモードにはなりません。スロットルグリップを閉じてください。

以上のことを確認しても始動待ちモードにならないときは・・・

ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

発進できないときは？

走行モードになっていますか？（走行可能表示灯（RUN）が点灯していますか？）

走行モードにならないと、発進できません。以上のことを確認してから、51ページの「発進の準備」「走りかた」の方法で再度発進してください。

以上のことを確認しても、発進できないときは・・・

ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

警告マーク（⚠）が表示されたときは？

メインスイッチを一旦OFFにしてからONにしながらも警告マーク（⚠）が表示されているときは・・・
ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

要 点

警告マーク（⚠）が表示されていても、走行可能表示灯（RUN）が点灯し走行モードになっていれば走行できます。

ランプ類が点灯しないときは？

次の項目を確認してください。

1. 車載充電をしていませんか？
2. メインスイッチがONになっていますか？（メーターが表示をしていますか？）

メーターが表示していないときは、オートパワーオフが作動している場合がありますので、一旦メインスイッチをOFFにしてからONにしながらください。

3. 各スイッチを作動させていますか？

以上のことを確認しても、ランプ類が点灯しないときは・・・

- 方向指示灯の場合はヒューズ切れが考えられます。66ページを参照してヒューズを点検してください。ヒューズが切れていないときはランプの球切れが考えられます。76ページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

- 方向指示灯以外のランプ類の場合はランプの球切れが考えられます。76ページの規格に合わせて、同じものと交換してください。

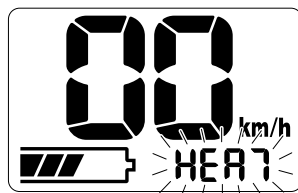
▲注 意

電球は、正規の規格と同じものと交換してください。これ以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

走行中にモーターが止まったときは？

次の項目を確認してください。

1. バッテリー残量はありますか？
バッテリー残量表示灯でバッテリー残量を確認してください。バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。
2. メーターが“HEAT”を表示していますか？



温度保護機能が作動しています。メインスイッチをOFFにして、しばらく待ってから使用してください。

▲注意

EC-02を押して移動する場合はメインスイッチをOFFにしてください。

また歩道のある場所では歩道を通行してください。

以上の事を確認しても、モーターが回らないときは・・・
ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

メインスイッチがONのときにメーターやヘッドライトが消灯したときは？

次の項目を点検してください。

1. 5分以上、停車していませんか？
EC-02にはバッテリー保護のため、オートパワーオフ機能が装備されています。停止したまま5分以上経過すると電源がOFFになり、メーターやヘッドライトが消灯します。
2. バッテリー残量はありますか？
バッテリーを取り外し、バッテリーボックス側ランプでバッテリー残量を確認してください。バッテリー残量がないときは充電してから使用してください。

▲注意

EC-02を押して移動する場合はメインスイッチをOFFにしてください。

また歩道のある場所では歩道を通行してください。

3. ヒューズ切れが考えられます。66ページを参照してヒューズを点検してください。

以上のことを確認してから再度メインスイッチをONにしてください。

再度メインスイッチをONにしてもメーターやヘッドライトが点灯しないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

充電できない（充電してもバッテリー残量が増えない）ときは？

充電できないときは、次の項目を確認してください。

1. 電源プラグや充電プラグはしっかり接続されていますか？
2. 充電器の充電ランプが緑色で点灯していますか？

充電器のランプが緑色の点滅または赤色の点灯や点滅をしているときは次の項目を参照してください。

上記のことを確認してから42ページの「充電のしかた」を参照し、もう一度充電してください。

以上のことを確認しても、充電できないときは・・・

それでも作動しない場合は、充電器の故障が考えられます。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

充電器の充電ランプが緑色でゆっくり点滅するときは？

故障ではありません。

充電待ちの状態です。そのままお待ちください。しばらくすると充電ランプが緑色点灯に変わり、通常充電を行います。

充電器の充電ランプが緑色ではやい点滅をするときは？

充電待ちの状態が長時間続いて充電が中止されました。

39ページ「充電する場所」を参照して、充電可能な温度（-5℃～45℃）の場所でもう一度充電してください。

充電器の充電ランプが赤色で点灯または点滅をするときは？

充電器またはバッテリーボックス内異常を検出したため、充電できません。

一旦充電プラグと電源プラグを抜いて充電を中止し、時間をおいてから再度充電してください。再び赤ランプ点灯または点滅する場合は機器の故障が考えられます。電源プラグと充電プラグを抜き、使用を中止してください。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

充電器から異音が生ずるときは？

充電中にファンが回る音がしますが異常ではありません。

充電器から異臭、煙が生ずるときは？

電源プラグと充電プラグを抜き、ただちに使用を中止してください。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

充電器が熱くなるときは？

充電中は多少の熱を持ちます。

（約40～60℃になる場合がありますが、故障ではありません。）

高温の場合は異常が考えられますので、電源プラグと充電プラグを抜いて、ただちに使用を中止してください。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

1回の充電で走れる距離が著しく短くなったときは？

バッテリーの寿命です。ヤマハ販売店でバッテリーを交換してください。バッテリー交換は有料です。

サービスデータ

製品仕様

車体

機 種 名 称	EC-02	原 動 機 種 類	25V交流同期電動機	ヒューズ（メイン）	7.5A
車名・認定型式	ヤマハ・SY02J	定 格 出 力	0.58kW	ヒューズ（ターンシグナル）	3A
全 長	1385mm	最 高 出 力	1.2kW(1.6PS)/2250r/min	ヒューズ（バックアップ）	3A
全 幅	620mm	最 大 ト ル ク	7.5N・m(0.76kgf・m)/310r/min	ヒューズ（電圧チェックプラグ）	3A
全 高	935mm	1 次 減 速 比	5.647（17/31/79）	タイヤサイズ	前 60/100-10 33J
軸 間 距 離	920mm	燃 料 の 種 類	電気		後 60/100-12 36J
最 低 地 上 高	115mm	バッテリー形式	リチウムイオン電池 IM24-m	タイヤ空気圧	前 200kPa(2.00kgf/cm ²)
乗 車 定 員	1名				後 250kPa(2.50kgf/cm ²)
車 両 重 量	47kg	バッテリータイプ	ESB1	電 球	ヘッドライト 24V35/35W
最 小 回 転 半 径	1600mm	バッテリー容量	25V24Ah		ブレーキ/テールランプ 24V21/6W
※1充電あたりの走行距離	43km				方 向 指 示 灯 24V10W×4
					速 度 警 告 灯 LED
					走 行 可 能 表 示 灯 LED

※ 1充電あたりの走行距離は定められた試験条件のもとで、時速30kmで走行した場合の値です。車載重量、走行時の気象、道路、車両、整備などの諸条件によって異なります。

充電器

電源	AC100V
充電時間	約6.0時間（充電待ちの時間を除く）
タイプ	ESC2

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

EC-02 サービスマニュアル

部品番号

基本版： QQS-CLT-000-3D2

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

（社）全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体

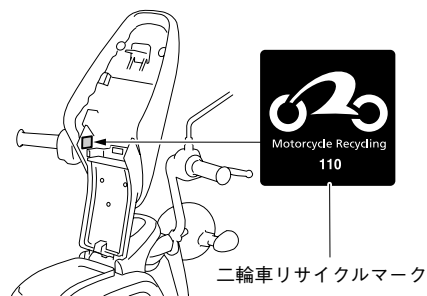
に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはありません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

（財）自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9時30分～17時00分

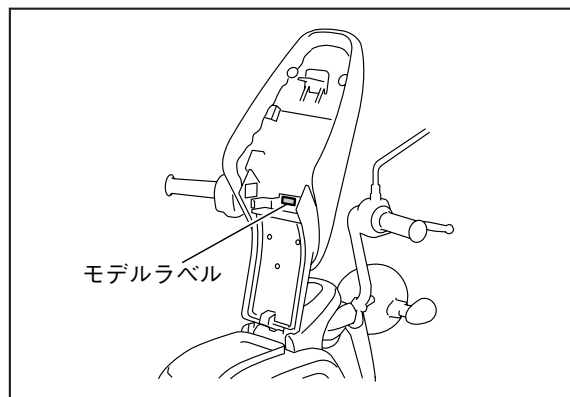
（土・日・祝日・年末年始等を除く）

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、シートを開けると貼り付けてあります。



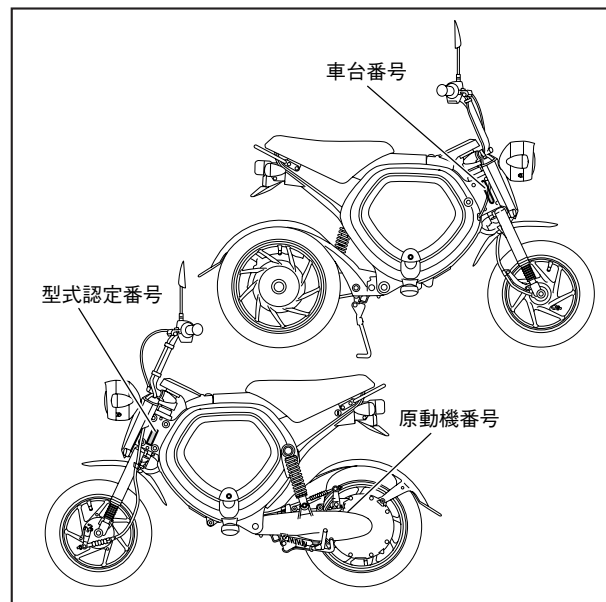
あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車 名 は	EC-02
モデルラベル	☐ 製品仕様を示しています。 ☒ カラーリングを示しています。

車台番号、原動機番号、型式認定番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。

QQS-CLT-100-3D2

再生紙を使用しています



PRINTED IN JAPAN
2005.10-0.9 × 3 
(J)